

平成28年度
網走市における景気動向調査
＜第Ⅰ四半期＞

報 告 書

網 走 商 工 会 議 所

目 次

第1章	調査要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1-1.	調査時点及び調査対象期間	
1-2.	調査対象	
1-3.	調査方法	
1-4.	回収状況	
第2章	概況	
2-1.	全体の動き・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2-2.	業種別の動き・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第3章	各判断項目回答割合	
3-1.	業況・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
3-2.	完成工事高・生産高・売上高・・・・・・・・	7
3-3.	在庫水準・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
3-4.	採算・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
3-5.	資金繰り・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
第4章	景況天気図	
4-1.	記号説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
4-2.	全業種D.I.値の状況・・・・・・・・・・	10
4-3.	業種別D.I.値の状況・・・・・・・・・・	11
第5章	産業別経営上の問題点・・・・・・・・・・	13
第6章	産業別設備投資の状況・・・・・・・・・・	14
第7章	業界の景気動向等その他のご意見・・・・・・・・	15

第1章 調査要領

1-1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点：平成28年7月8日（金）～平成28年7月20日（水）
- (2) 調査時点：平成28年4月～6月期実施、及び平成28年7月～9月期見通し

1-2. 調査対象

網走市に所在する建設業（30件）、製造業（24件）、卸売業（21件）、小売業（41件）、サービス業（44件）、の5業種160社を調査対象とした。

1-3. 調査方法

調査対象に調査票を送付し、FAX、若しくは、返信用封筒による郵送で回答を受ける。

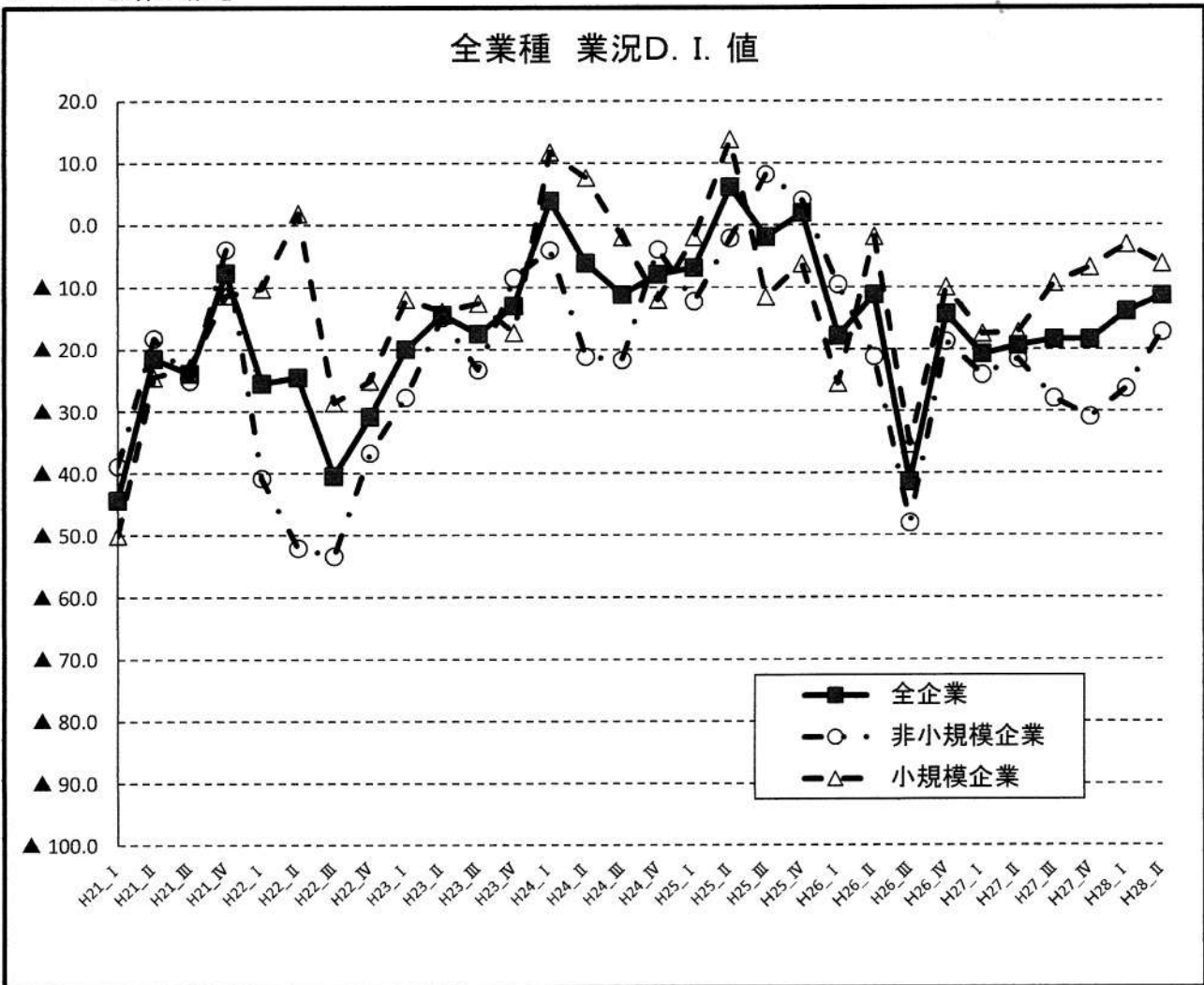
1-4. 回収状況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
建 設 業	30 件	24 件 (非小規模企業:11件) (小規模企業:13件)	80.0 %
製 造 業	24 件	19 件 (非小規模企業:8件) (小規模企業:11件)	79.2 %
卸 売 業	21 件	17 件 (非小規模企業:9件) (小規模企業:8件)	81.0 %
小 売 業	41 件	29 件 (非小規模企業:12件) (小規模企業:17件)	70.7 %
サービス業	44 件	35 件 (非小規模企業:18件) (小規模企業:17件)	79.5 %
合 計	160 件	124 件	77.5 %

注) 小規模企業とは、常時使用する従業員が20名以下（卸売業・小売業・サービス業は5人以下）を示している。

第2章 概況

2-1. 全体の動き



注) D.I.値とは、ディフュージョン・インデックスの略で、景気動向指数を示すものであり、好転の割合から悪化の割合を引いた値である。

平成28年度第I四半期<4月～6月>の業況は、前年同期比で「好転企業」18.0%、「悪化企業」32.0%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は▲13.9と前期に比べ4.5ポイント改善しました。規模別でみると、小規模企業のD.I.値は同3.7ポイント改善し▲3.1、非小規模企業は4.6ポイント改善し▲26.3となりました。全体としては、9期連続のマイナス水準で、網走市における景気停滞感は依然として続いており、厳しい状況のもとに置かれています。

とくに業種別でみた業況は、建設業が26.8ポイント改善してマイナスからプラスに転じ12.5になったものの、他の4業種では依然としてマイナス水準となっています。特に製造業は前期と比較し、26.8ポイントと大幅に悪化し▲44.4となりました。次いで卸売業の▲17.6(19.9ポイントの改善)、小売業の▲17.2(2.4ポイントの悪化)、サービス業の▲11.8(3.3ポイントの改善)となりました。

次期<7月～9月>の業況判断D.I.は2.5ポイント改善の▲11.4を予想しており、業種別では建設業0、製造業▲16.7、卸売業▲17.6、小売業▲37.9、サービス業8.6と2業種でプラスもしくは同水準を示しましたが、小売業が20.7ポイントも悪化が予想されており、全体としても局面には変わりがないと言えます。

経営上の問題点としては、「人材不足」「同業者間の競合」「得意先減少」「売上の不振」が上位を占めており、建設業とサービス業では「人材不足」がより顕著に現れています。また、製造業のD.I.値は▲44.4と大幅に落ち込みましたが、他の業種に比べて「諸経費増」や「人件費増」が上位に来ていることから、「売上の不振」「同業者間の競合」の問題と合わせてかなり深刻な状況になっていると言えます。

2-2. 業種別の動き

(1) 建設業

■完成工事高

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	53.8 %	15.4 %	38.4	↗
非小規模企業	18.2 %	72.7 %	-54.5	↘
全 体	37.5 %	41.7 %	-4.2	↘

■採 算

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	16.7 %	25.0 %	-8.3	↘
非小規模企業	18.2 %	27.3 %	-9.1	↘
全 体	17.4 %	26.1 %	-8.7	↘

■次期の見通し

判断項目	規 模	好転・増加	悪化・減少	D.I.値	
業況	小規模企業	23.1 %	23.1 %	0.0	→
	非小規模企業	18.2 %	18.2 %	0.0	→
	全 体	20.8 %	20.8 %	0.0	→
完成工事高	小規模企業	23.1 %	15.4 %	7.7	↗
	非小規模企業	36.4 %	18.2 %	18.2	↗
	全 体	29.2 %	16.7 %	12.5	↗
資金繰り	小規模企業	7.7 %	15.4 %	-7.7	↘
	非小規模企業	18.2 %	9.1 %	9.1	↗
	全 体	12.5 %	12.5 %	0.0	→

(2) 製造業

■生 産 高

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	10.0 %	60.0 %	-50.0	↘
非小規模企業	12.5 %	50.0 %	-37.5	↘
全 体	10.0 %	55.6 %	-45.6	↘

■採 算

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	0.0 %	50.0 %	-50.0	↘
非小規模企業	0.0 %	62.5 %	-62.5	↘
全 体	0.0 %	55.6 %	-55.6	↘

■次期の見通し

判断項目	規 模	好転・増加	悪化・減少	D.I.値	
業況	小規模企業	10.0 %	30.0 %	-20.0	↘
	非小規模企業	25.0 %	37.5 %	-12.5	↘
	全 体	16.7 %	33.3 %	-16.6	↘
生産高	小規模企業	10.0 %	30.0 %	-20.0	↘
	非小規模企業	0.0 %	37.5 %	-37.5	↘
	全 体	5.6 %	33.3 %	-27.7	↘
資金繰り	小規模企業	0.0 %	20.0 %	-20.0	↘
	非小規模企業	0.0 %	37.5 %	-37.5	↘
	全 体	0.0 %	27.8 %	-27.8	↘

(3) 卸売業

■売上高

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	12.5 %	37.5 %	-25.0	↘
非小規模企業	22.2 %	55.6 %	-33.4	↘
全 体	17.6 %	47.1 %	-29.5	↘

■採 算

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	0 %	25 %	-25.0	↘
非小規模企業	11.1 %	55.6 %	-44.5	↘
全 体	5.9 %	41.2 %	-35.3	↘

■次期の見通し

判断項目	規 模	好転・増加	悪化・減少	D.I.値	
業況	小規模企業	25 %	12.5 %	12.5	↗
	非小規模企業	0 %	44.4 %	-44.4	↘
	全 体	11.8 %	29.4 %	-17.6	↘
売上高	小規模企業	25 %	25 %	0.0	→
	非小規模企業	0 %	33.3 %	-33.3	↘
	全 体	11.8 %	29.4 %	-17.6	↘
資金繰り	小規模企業	0 %	12.5 %	-12.5	↘
	非小規模企業	0 %	22.2 %	-22.2	↘
	全 体	0 %	17.6 %	-17.6	↘

(4) 小売業

■売上高

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	23.5 %	47.1 %	-23.6	↘
非小規模企業	16.7 %	33.3 %	-16.6	↘
全 体	20.7 %	41.4 %	-20.7	↘

■採 算

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	11.8 %	47.1 %	-35.3	↘
非小規模企業	33.3 %	16.7 %	16.6	↗
全 体	20.7 %	34.5 %	-13.8	↘

■次期の見通し

判断項目	規 模	好転・増加	悪化・減少	D.I.値	
業況	小規模企業	0.0 %	41.2 %	-41.2	↘
	非小規模企業	8.3 %	41.7 %	-33.4	↘
	全 体	3.4 %	41.4 %	-38.0	↘
売上高	小規模企業	0.0 %	41.2 %	-41.2	↘
	非小規模企業	16.7 %	50.0 %	-33.3	↘
	全 体	6.9 %	44.8 %	-37.9	↘
資金繰り	小規模企業	0.0 %	29.4 %	-29.4	↘
	非小規模企業	16.7 %	16.7 %	0.0	→
	全 体	6.9 %	24.1 %	-17.2	↘

(5) サービス業

■ 売上高

規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	17.6 %	17.6 %	0.0	→
非小規模企業	22.2 %	50.0 %	-27.8	↘
全 体	20.0 %	34.3 %	-14.3	↘

■ 採 算

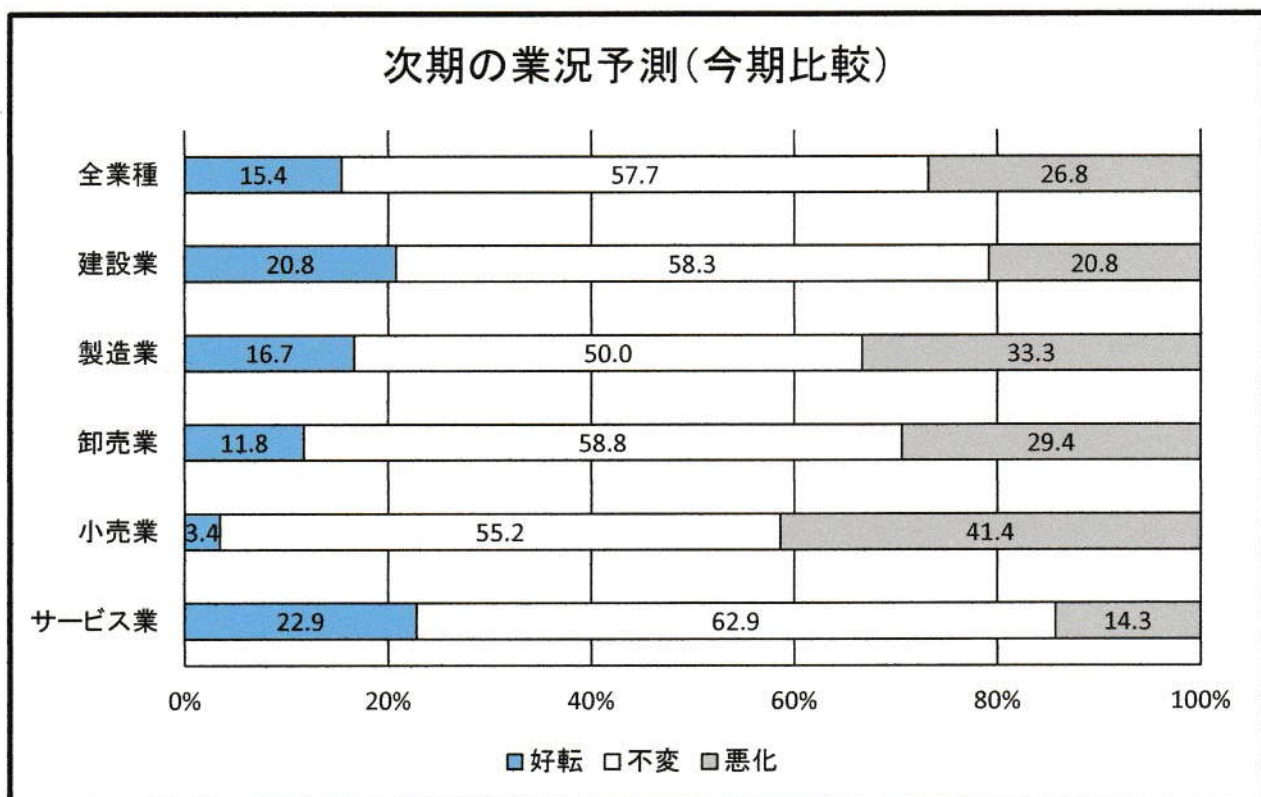
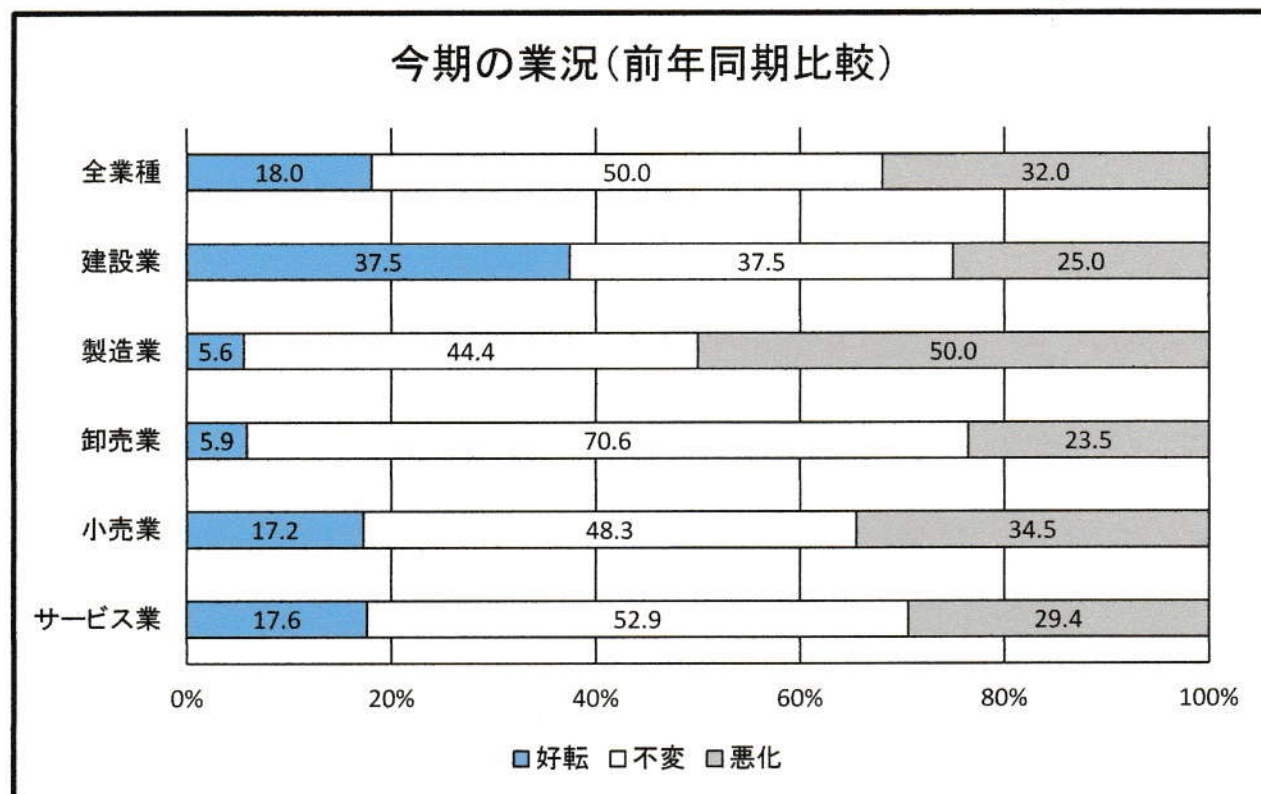
規 模	増 加	減 少	D.I.値	
小規模企業	17.6 %	17.6 %	0.0	→
非小規模企業	22.2 %	33.3 %	-11.1	↘
全 体	20.0 %	25.7 %	-5.7	↘

■ 次期の見通し

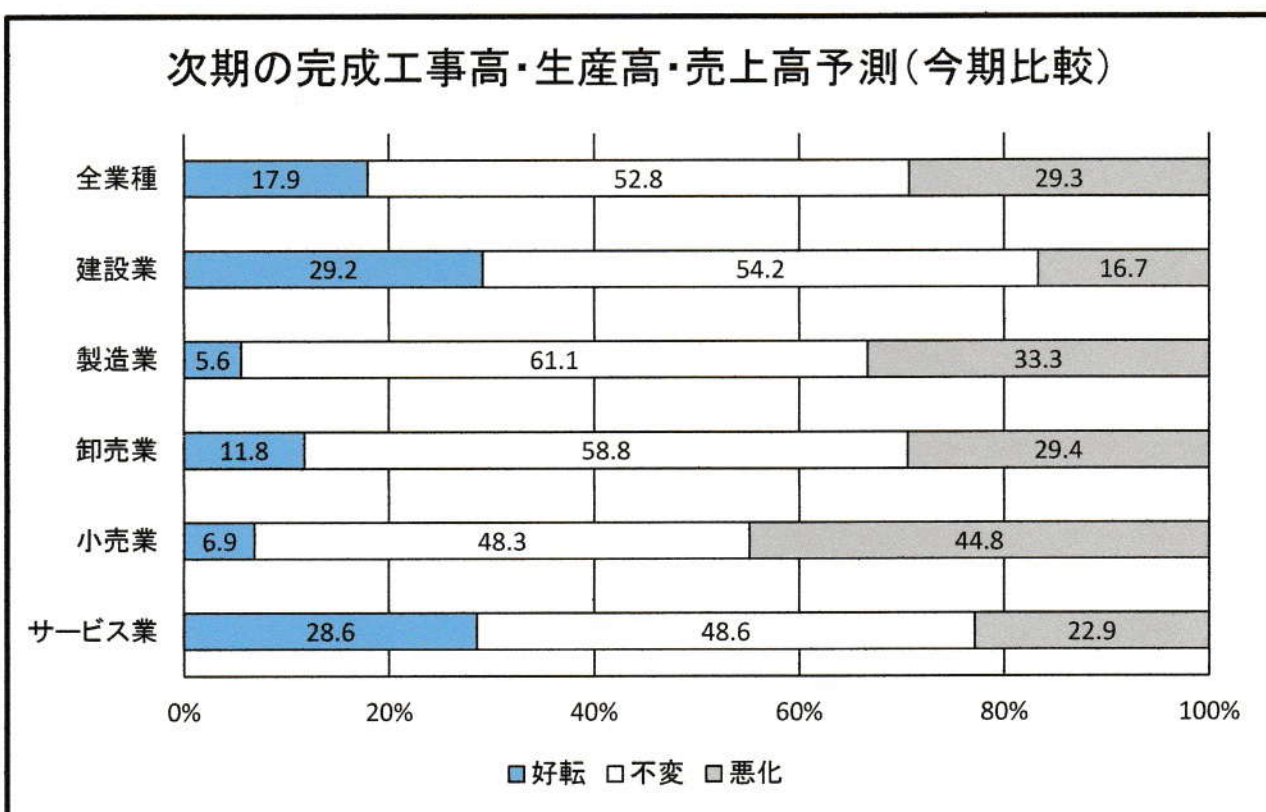
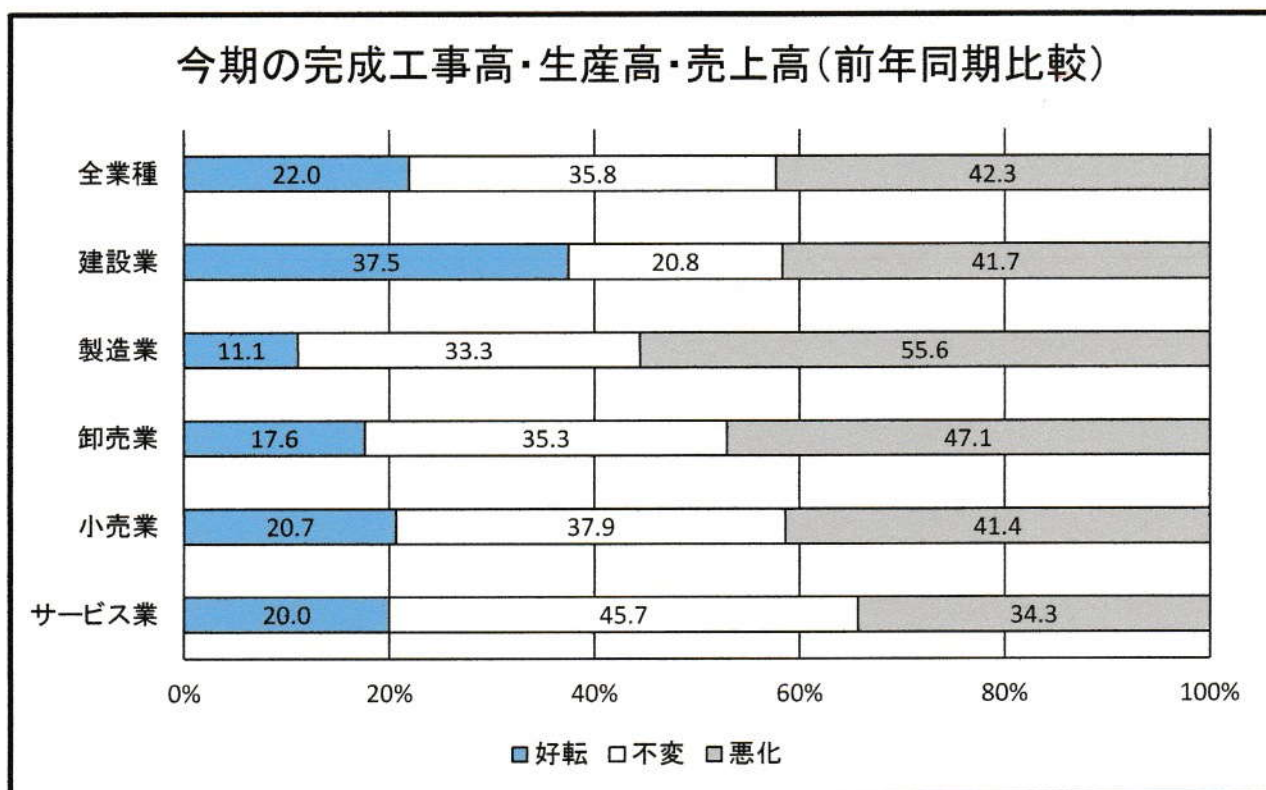
判断項目	規 模	好転・増加	悪化・減少	D.I.値	
業 況	小規模企業	23.5 %	0.0 %	23.5	↗
	非小規模企業	22.2 %	27.8 %	-5.6	↘
	全 体	22.9 %	14.3 %	8.6	↗
売上高	小規模企業	29.4 %	5.9 %	23.5	↗
	非小規模企業	27.8 %	38.9 %	-11.1	↘
	全 体	28.6 %	22.9 %	5.7	↗
資金繰り	小規模企業	25.0 %	6.3 %	18.7	↗
	非小規模企業	11.1 %	5.6 %	5.5	↗
	全 体	17.6 %	5.9 %	11.7	↗

第3章 各判断項目回答割合

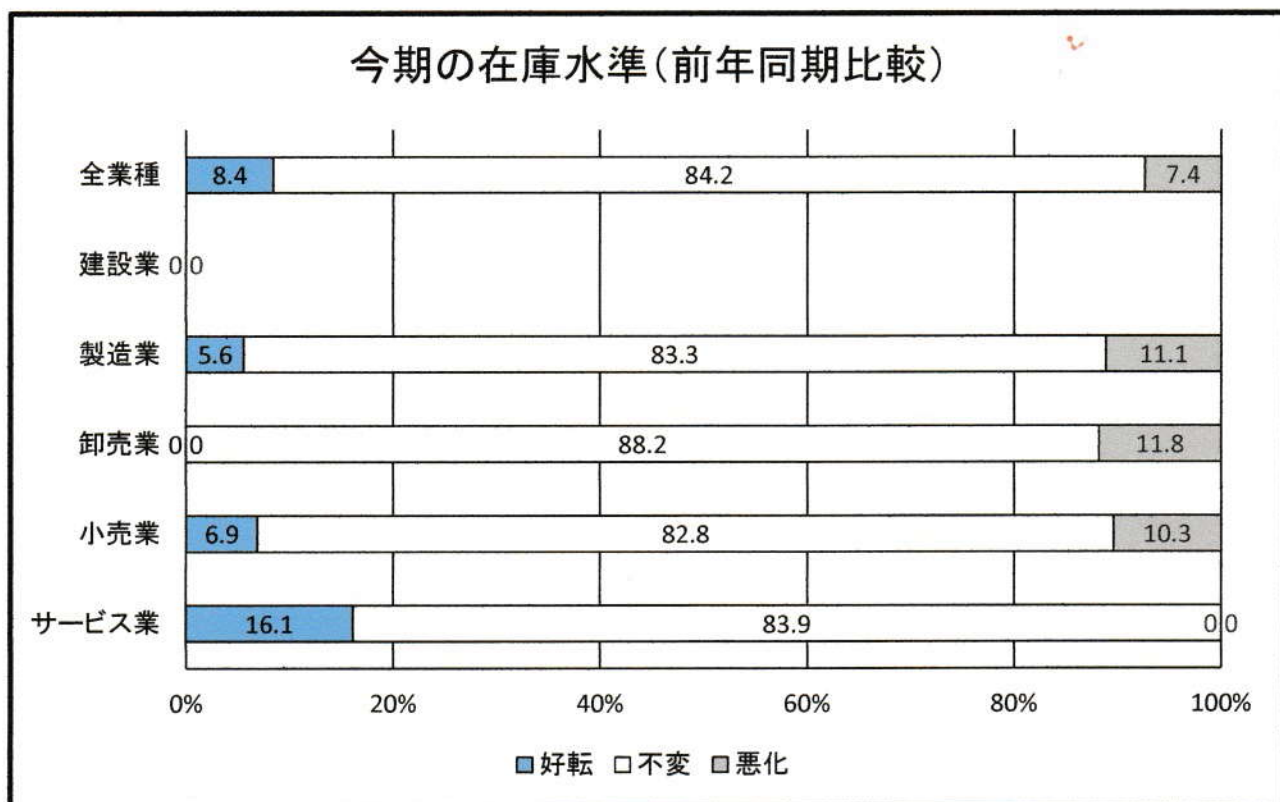
3-1. 業況



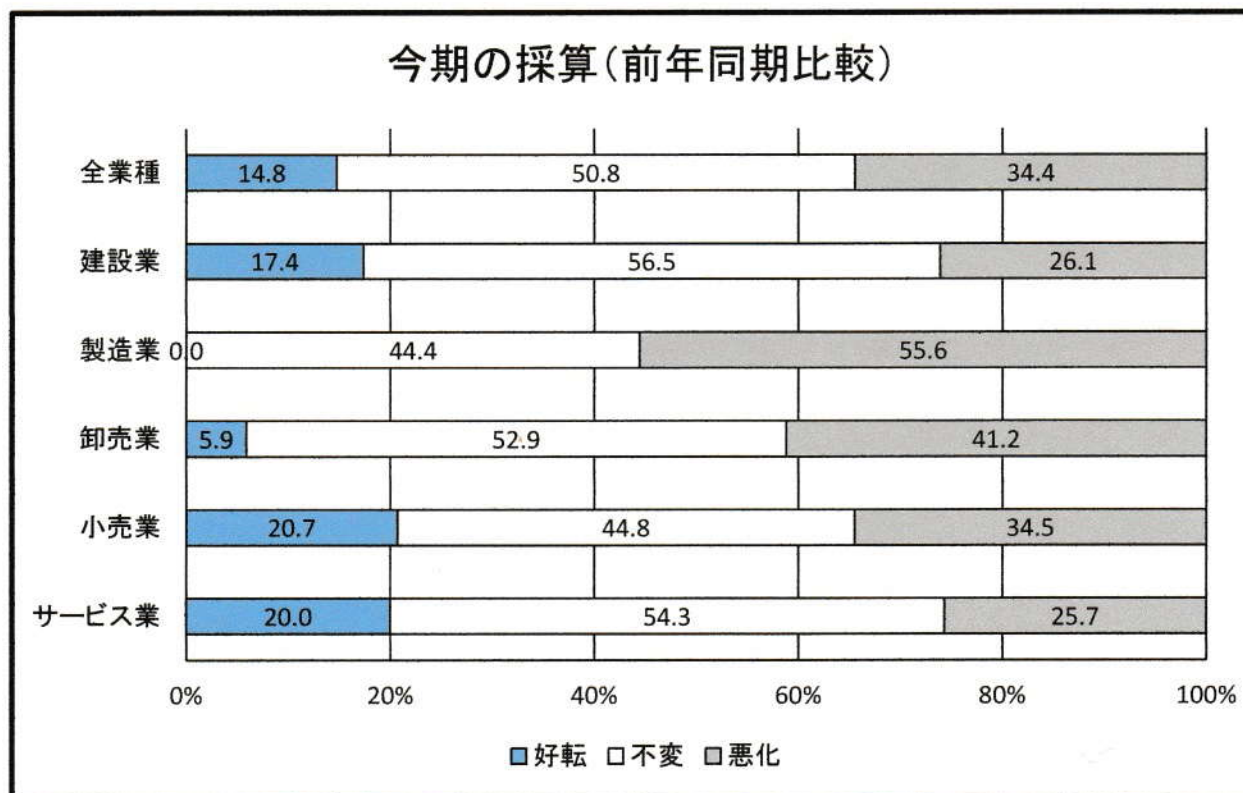
3-2. 完成工事高・生産高・売上高



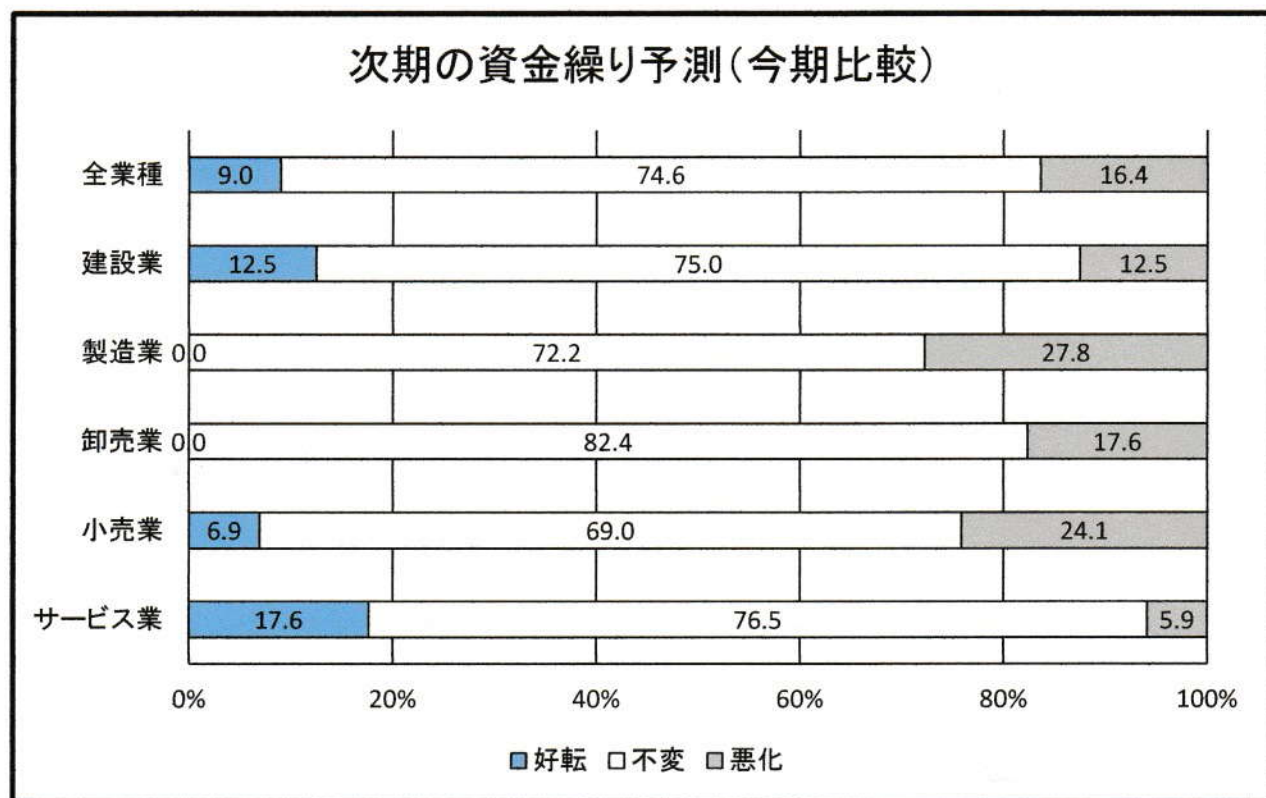
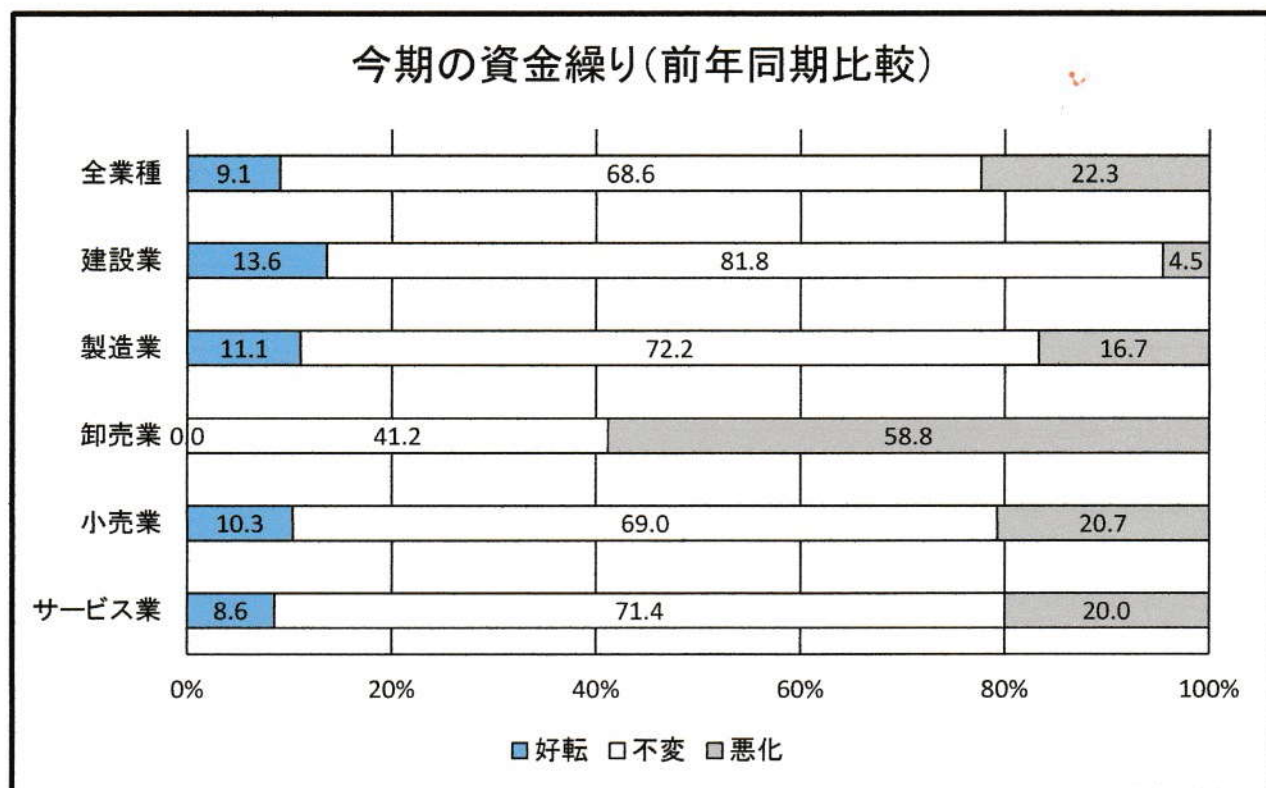
3-3. 在庫水準



3-4. 採算

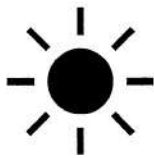


3-5. 資金繰り



第 4 章 景況天気図

4－1．記号説明

				
とくに好調 (D.I. ≥ 50)	好 調 ($50 > \text{D.I.} \geq 25$)	まあまあ ($25 > \text{D.I.} \geq 0$)	不 振 ($0 > \text{D.I.} \geq \blacktriangle 25$)	きわめて不振 ($\blacktriangle 25 > \text{D.I.}$)

4－2．全業種 D.I.値の状況

	前年同月比	3ヶ月見通し
業 況	 $\blacktriangle 13.9$	 $\blacktriangle 11.4$
売 上	 $\blacktriangle 20.3$	 $\blacktriangle 11.4$
採 算	 $\blacktriangle 19.7$	
資金繰り	 $\blacktriangle 13.2$	 $\blacktriangle 7.4$

4-3. 業種別 D.I.値の状況

	判断項目	前年同月比	3ヶ月見通し
建設業	業 況	 12.5	 0.0
	完成工事高	 ▲ 4.2	 12.5
	採 算	 ▲ 8.7	
	資金繰り	 9.1	 0.0
製造業	業 況	 ▲ 44.4	 ▲ 16.7
	生産高	 ▲ 44.4	 ▲ 27.8
	採 算	 ▲ 55.6	
	資金繰り	 ▲ 5.6	 ▲ 27.8
卸売業	業 況	 ▲ 17.6	 ▲ 17.6
	売 上	 ▲ 29.4	 ▲ 17.6
	採 算	 ▲ 35.3	
	資金繰り	 ▲ 58.8	 ▲ 17.6

	判断項目	前年同月比	3ヶ月見通し
小売業	業 況	 ▲ 17.2	 ▲ 37.9
	売 上	 ▲ 20.7	 ▲ 37.9
	採 算	 ▲ 13.8	
	資金繰り	 ▲ 10.3	 ▲ 17.2
サービス業	業 況	 ▲ 11.8	 8.6
	売 上	 ▲ 14.3	 5.7
	採 算	 ▲ 5.7	
	資金繰り	 ▲ 11.4	 11.8

第5章 産業別経営上の問題点

業 種	1位	2位	3位	4位	5位
建設業	人材不足	同業者間の競合	売上の不振	諸経費増	人件費増
製造業	諸経費増	人件費増 人材不足 同業者間の競合 売上の不振			
卸売業	得意先減少	同業者間の競合	人材不足 売上の不振		諸経費増
小売業	得意先減少	売上の不振	人材不足 同業者間の競合		人件費増 諸経費増
サービス業	人材不足	得意先減少	同業者間の競合	人件費増	諸経費増 売上の不振
合 計	人材不足	同業者間の競合	得意先減少 売上の不振		諸経費増

第6章 産業別設備投資の状況

今期の設備投資の有無と設備内容について調査し、業種別に統計しました。
設備投資の有無は表1のとおり、設備内容は表2のとおりです。

表1 業種別件設備投資の動向

設備投資	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業		合計	
した	4 件	16.7	5 件	27.8	1 件	5.9	5 件	17.2	5 件	14.3	20 件	16.3
しない	20 件	83.3	13 件	72.2	16 件	94.1	24 件	82.8	28 件	80.0	101 件	82.1
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	2 件	5.7	2 件	1.6
合 計	24 件	100.0	18 件	100.0	17 件	100.0	29 件	100.0	35 件	100.0	123 件	100.0

※右側の数字はパーセンテージを示している。

表2 業種別設備投資の内容

設備投資 内容	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	合 計
土 地	-	1 件	-	-	-	1 件
店 舗	-	-	-	-	1 件	1 件
販売設備	-	-	-	1 件	1 件	2 件
車輛運搬具	3 件	2 件	-	1 件	-	6 件
付帯設備	-	4 件	-	3 件	2 件	9 件
OA機器	-	1 件	1 件	1 件	-	3 件
福利厚生施設	-	1 件	-	-	-	1 件
その他	1 件	2 件	-	1 件	1 件	5 件

※複数回答があるため、表6-1の合計件数と相違している。

※その他の記述内容(2件記述有り)

・大型ラミネータ入替(サービス業)

・整備工場、機械装置(サービス業)

第7章 業界の景気動向等その他のご意見

(1) 業界の問題点について

【建設業】

- ・仕事が沢山あっても、人材不足で大変です。70代は普通で、80代の方もいます。若い方はどこにいらっしゃるのでしょうか。

【製造業】

- ・消費量自体が減少しているので、売り上げが思うように増えない。
- ・デフレの最大の状況。
- ・小麦、卵、乳製品等アレルギーの増加で幼稚園、保育園、病院、学校関係の受注が減少傾向にあり、苦勞しています。
- ・会議所の移転はどうなったのか。
- ・ホタテ原料の異常高騰。

【卸売業】

- ・市内大型ホテル倒産、国内日本人客激減深刻、中国が関税引き上げ旅行者減る。

【小売業】

- ・新規事業を考え、新しいことにチャレンジをしなければならない。
- ・中小企業に対してもっとできることはないか。大企業寄りの施策に対してうんざり。業界とは関係ないが、希望の持てる行政になってほしい。
- ・顧客の高齢化に伴う消費量の減少と消費者の減少。上記に関連した業界の危機意識の欠如。
- ・円安等による来客減、消費額減が大きく影響している。

【サービス業】

- ・喫茶店は一昔前と比べ経営が難しい時代となった。網走でも店舗数は減り、同業者間の競争は少ないにもかかわらず、持続していくのは大変。若者たちはスマートフォンや車などの維持管理で懐事情は火の車。1杯400円のコーヒーに手が出ないのかもしれない。カフェインがほしいときはコンビニの100円コーヒーでいっちょ上がり。家族5人で飲んでもワンコインで済む。でも、喫茶店で飲むコーヒーは格別。心地よい音楽と店のスタッフとの情報交換……魅力はいっぱいある。もう一度コーヒー文化を見直してほしい。田舎でのコーヒーショップ経営は限りなく透明に近いブルーである。
- ・高齢化と人材不足、労働関連法が一致していない。
- ・鍼灸院ではその施術内容や時間、および使用器材が異なる場合でも1回2100円など1回の施術料金で比較されることが多く、患者さんたちにその内容の違いをご理解していただけないコトが多い。また、国家資格を持たないリラクゼーション系サロンと同列に思われている、広告が行えないなど困っていることがあります。
この客入の減少は、業界の問題なののでしょうか？網走全体の何かが問題な様な気がします。
- ・格安で入手したホテルの低価格販売に苦慮している。不当競争に近い状態である。
- ・土地の動きがないと測量等の仕事が減少してくるので今後の問題です。
- ・海外客の減少。

- ・為替の影響でインバウンドの来日が減って来ている。
- ・若年ドライバーの不足。
- ・和牛肉だけでなく肉、ホルモン類等値上がりが続いています。
- ・管内人口減。
- ・無許可業者がいるが、個人的に頼まれたと言っているようで、市も現行を見ないと取締りができないため、何度も行っている話を聞く。
- ・客足の回数が減少、客の高齢化。

(2) 2017年4月から導入が予定されていた消費税増税(8%→10%、軽減税率等)が、2019年10月に延期されたことに対する意見について

【建設業】

- ・業態としては駆け込み需要に対する割合は少ないため、特に影響はない。
- ・消費税軽減税率に対応する手間がなくなりよかった。
- ・社会保障費が増え続けるので増税を延期する必要はない。
- ・消費税増税が2年半延期されることがきまり高額消費の代表である住宅市場の増税後に需要が落ち込むという心配が当面なくなり住宅業界の間にはひとまず安ど感が広がっている。しかし、駆け込み需要発生の可能性はなくなり今年度の住宅着工は減る可能性がある。
- ・増税の影響はかなり大きな物になると予想しています。私どもの様な零細企業だと、設備投資時などに二の足を踏んでしまいます。本当に必要な物でも控えざるを得なくなり、お金の循環が悪くなると思います。
- ・実施するなら4月開始とすべき。減税(8%から5%へ)する方が景気回復につながる。政策と戦略が大都市(大企業、一部の富裕層)に片寄っている。
- ・景気低迷の中、税率が延期されたことは歓迎するが、この間の予算執行が減少することが不安。
- ・当社の営業にはあまり影響を今は感じていない。延期が中止になればインパクトは強く感じるが、先延ばしは決していいとは思わない。
- ・増税はしてほしくなかったもので、よかったと思います。仕事も受注し易くなり、お客様も消費税の負担を抑えることができ、この状態が続いた方がいいと思っています。
- ・増税が延期になって良かったです。地方納税が2%でも低い方が助かりますので。
- ・増税は必要だと思っていますが、景気は決して良くありません。大手企業、もしくは市内業者ではAランクはコンスタントに公共工事受注もありますが、それ以外は大変ななか、頑張っているのが現状です。増税により従業員の生活も大変になると思います。
- ・良かったと思います。2019年に延期されたとしても、いずれ消費税が上がるのでその準備をしなければと思っています。
- ・大変良いことだと思う。
- ・昨年、受注が減少したのに一昨年度の好業績分の消費税支払い8%の金額が多額に思え、大変驚きました。これが10%になると、相当な消費税支払金の準備をしておかないと払えなくなると実感しました。
- ・消費税の増税の延期はとりあえず経営的には落ち着いて一息つけると思う。その後は未定だが…消費税の増税は必要かもしれないが仕事を受注するうえでは、金額が加算されなかなかな大変だと思う。
- ・延期せずに、すみやかに実施すべき。その中で議員の削減や歳費の見直しを計るべき。

【製造業】

- ・増税延期はよかった。食品軽減税率が施工されると実務が煩雑化すると思うので、増税は行われないうほうが良いと思っている。
- ・売り上げが少なくなるかも。
- ・楽しくないことを先延ばしされるのはつらい事と思うが。
- ・軽減税率には反対であるが、延期が繰り返されるのは、増税が本当に必要なのか疑問である。
- ・一時的には支持されても近い将来問題がおこる要素が強くなる不安が残る。
- ・利益が少なくなっているので、税金を払うのには苦勞しています。お客様から値上げをして税金をいただけないのが現状です。
- ・よかったと思います。
- ・事業活動では、特に影響はない。
- ・消費税増税に伴う消費活動の鈍化が回避されたものの、一時的な先送りに過ぎず、根本的な購買行動の活性化にはならない。価格以外にも、何らかの魅力あるものづくりを提案・創造していく必要がある。
- ・納税のための貯金が資金繰りに回っているので、上がらないほうが良い。直接投資にも税の負担が大きくなる。
- ・所得が増加していない状況なので、これは正解なのでは？ 消費が冷えてしまえば元も子もない。

【卸売業】

- ・増税が消費を落としていることがわかったかな。
- ・大変良い事と思う。もともと経済の状況によって実施すべきなので、経済状況が悪ければ延期は当然。やるなら、同時に商品券も軽減税率もやるべき。
- ・延期となったので、軽減税率は廃止すべき。
- ・売上の減少。
- ・仮払、借受消費税の管理が少し楽。
- ・北海道、特に地方では少子高齢化も進み、過疎化も深刻な状況でアベノミクス経済対策の効果は北海道にはいきわたっていない。現状を打開するには地方の経済力底上げが必要。従って、消費税増税の延期は妥当だと思います。
- ・買掛金と売掛金が税率分だけ抑えられることで、それぞれ資金繰りと債権の回収が今以上に困難になることを抑止される。ともなってコストの上昇も抑えられる。
- ・消費税増税を見越した買い溜め需要も先延ばしになり売上増も見込めない。
- ・良かった。
- ・増税を理由に販売価格に直ぐ反映できない（競合の問題）ことから延期された事は現状では良いと考える。
- ・2014年の消費税が8%に引き上げにより消費が冷え込み快復しないまま10%になると適正な販売価格が見込めない。

【小売業】

- ・消費税増は仕方ないと思うが、軽減税率は消費者や食品を扱う企業の混乱・諸経費増（経理業務の増など）になってしまうので、しないほうが良い。違う方法で消費者に平等に還元すべき。
- ・現状の税率を維持できると助かる。先送りされただけなので対策をより練って10%に対応していきたい。政府には増税した分、国民に分かりやすく説明、実感できるものであ

るようお願いしたい。

- ・問題外と思われます。
- ・国内の税収も以前に比べると増えているので、来年4月に消費税が導入された場合、消費が再び冷え込み嫌だろと思っていたので延期は正しい判断だと思っています。減税(消費税)した方が税収が増えるという専門家もいますので。
- ・増税の延期は予想内。当たり前だと思う。延期後の増税はどうなるのか。軽減税率をなくしてほしい。
- ・社会保障のために10%にすべき。
- ・ほっとしている。手続き上はチェーンなので店内全部のPC差し替え等人を投入してすることなので大変なところもあるが、客が8%に慣れて財布のひもも緩んできたところなので、この1年が勝負かと思う。10%になれば客足・客単価ともに下がるのは目に見えているので、店をどう継続させるか悩ましいところである。
- ・消費税が10%になったらさらに利益を圧縮しなければ商品が売れなくなると思う。しかし、消費税は納めなければいけないので経営は苦しくなると思うが、軽減税率とか経過措置とか、めんどうなものはやめてもらいたい。
- ・よかった。
- ・ほっとしている。売り上げが下がっても消費税が上がるのに納得がいかない。決算上赤字の会社からさらに税金を取るのはいかがなものか。タックスヘイブンをもっと追及すべき。政府はしっかりしてほしい。
- ・延期になったからと言って今までと同じ状態と思う。
- ・軽減税率は大変手間がかかりますのでしてほしいです！！
- ・今後の状況を考えると実施してほしい。先送りなのか、廃止になるのかははっきりしてほしい。”選挙対策で先送りしたのなら問題である”
- ・深刻に考える必要はなし。
- ・当社にとってはよかったと思う。
- ・かけ込み需要はなくなったけれど車販の状況はそんなに悪くない。消費税アップはこの業界にはあまりよくないので、延期はよかったと思う。
- ・増税にともなうかけ込み売上増が見込めるか不安。旅行者も増税前に来てくれるか不安。アベノミクス効果は末端にはあらわれてない。逆に不況、その上の増税は延期されても同じ思い。
- ・消費税増税に耐えうるレベルまで景気が良くなることを期待します。
- ・助かった。
- ・延期により、増税前の売り上げを若干期待していたが、増税後の売り上げ不振を考えると何とも言えない
- ・延期してよかった。10%になったら増々景気が悪くなる！！

【サービス業】

- ・増税で喫茶メニューの価格を上げることは難しい。コーヒー豆など商品の仕入れ値は増税によりアップする。今回の消費税増税の延期はよかった。
- ・メニューの見直しも考えていましたので少しホットしています。
- ・10%の消費税の導入が望ましい。金額が明確で、販売価格の管理が楽。
- ・当サロンにおいてはあまり影響がないように思いますが、その時になってみないと分かりません。※消費税増税のタイミングで料金改定を考えていましたがもう待てないので9月から美容鍼灸の料金(内容リニューアルを含む)を行う予定です。その理由は内容に比較して料金が安すぎるからです。

- ・ただ延びただけで実感は無い。
- ・当然のこと、政治家の役務怠慢の付けを国民に尻拭いさせることは当然ゆるせない。
- ・大変好ましいです
- ・今のところは影響がないです。
- ・延びた方が助かるが延びなくてもがんばります。
- ・10月で良いと思います。
- ・経費増がひとまず遠のいたのでほっとしている。しかし景気全体から見ると、延期はよかったのだろうか。
- ・正解だと思います。
- ・毎年値上げをしているが、来年もできそうでよかった。
- ・増税に対する不安がぬぐえない現状では、一旦は安堵。
- ・良かったと思っている。
- ・中小企業において景気や対得上昇が感じられず延期は妥当だと思います。
- ・消費税増税の延期は選挙のあめ玉として利用されただけ。経済情勢からみて増税そのものをすべきでないと思います。
- ・先送りになったことだけです。市況に影響はないものと考えてあります。全体的に景気が良くなれば2年後の増税後も大きな影響はないと思います。
- ・弊社のような業種では特に問題はないので、早めに上げてほしい。
- ・増税による消費の低迷が懸念される。その意味では良い。単なる先延ばしではなくその間に景気対策がどう行われるかが重要。
- ・延期されたことによる回復がないと思われる。
- ・いずれの実施においても消費動向に影響があることは否めず不安である。
- ・とりあえず良った。洗浄機の改良が待てる時間が出来た。
- ・良かったです。売り上げが減少しても支払する宿で税額が上がるのでさびしいです。
- ・経営的には助かる。